

LOBO 調査

早期景気観測

12月分 日商調査日 12月6日～16日
当所調査日 12月6日～17日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査
12月の全産業DI ▲15.8
(前月比+5.3ポイント)

○中小企業の景況感

日常生活の回復に伴う外出機会の増加や一部自治体による需要喚起策の効果により、客足が増える飲食・宿泊業を中心としたサービス業の回復が続くほか、小売業では衣料品の需要に持ち直しの動きがみられる。

一方、製造業を中心に、依然として幅広い業種で、部品供給制約による納品遅れ、原油価格を含む資源価格や鉄鋼などの原材料費の上昇などのコスト増加が続いている。

加えて、活動正常化に伴う人手不足も発生しており、中小企業の景況感は回復基調が続くものの、力強さを欠いている。

○先行き

先行き見通しDIは▲18.0（12月比▲2.2ポイント）。

感染拡大防止と社会経済活動の両立

に向けた国・自治体の支援の拡充により、年末年始の商戦を契機とした個人消費拡大や国内の観光需要回復などへの期待感がうかがえる。

一方、オミクロン株による感染拡大と活動制約を懸念する声に加え、部品供給制約の長期化や円安、資源価格の高止まり、最低賃金引き上げによる人件費増などのコスト上昇圧力の継続、仕入価格上昇分の価格転嫁の遅れから、先行きの不透明感が高まり、慎重な見方が広がっている。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

取引先との交渉により、原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁できたため、業況は好転。需要が増加する中、半導体部品の納期が長期化していることを受け、安定調達のため、取引先も容認する姿勢であった。（電子部品製造業）。

【三所調査

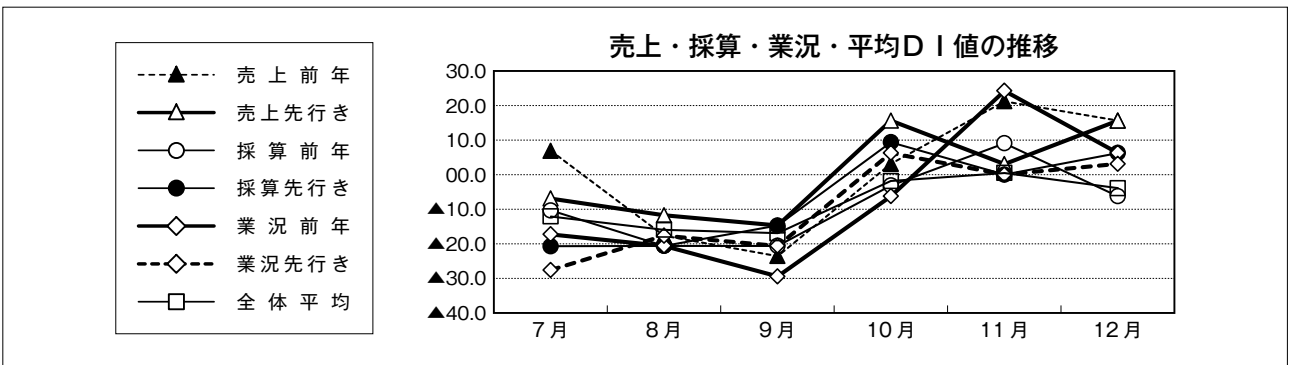
「先月から微減。世界的な供給不足の影響か」

全体平均DIは▲3.9で前月に比べ▲4.4ポイントの減少。項目別では、資金前年▲21.5ポイント、業況前年▲17.9ポイントの減少が見られた。

寄せられたコメントは、「半導体不足から電子楽器が令和4年の10月まで入荷しない予定」（楽器小売業）、「人手不足が顕著である」（ガラス・同製品製造業）といった、部品などの供給不足、活動正常化に伴う人手不足の影響が大きいことが伺える。

(全産業) 水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移) (サンプル数40社)

項目	令和2年		令和3年					
	12月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
売上前年	▲53.6	6.9	▲17.6	▲23.5	3.1	21.2	15.6	
売上先行き	▲42.9	▲6.9	▲11.8	▲14.7	15.6	3.0	15.6	
採算前年	▲46.4	▲10.3	▲20.6	▲20.6	▲3.1	9.1	▲6.3	
採算先行き	▲39.3	▲20.7	▲20.6	▲14.7	9.4	0.0	6.3	
仕入前年	▲28.6	▲48.3	▲50.0	▲47.1	▲53.1	▲51.5	▲65.6	
仕入先行き	▲32.1	▲34.5	▲41.2	▲38.2	▲46.9	▲57.6	▲56.3	
社員前年	10.7	20.7	11.8	11.8	18.8	21.2	18.8	
社員先行き	7.1	13.8	5.9	14.7	25.0	21.2	18.8	
業況前年	▲53.6	▲17.2	▲20.6	▲29.4	▲6.3	24.2	6.3	
業況先行き	▲53.6	▲27.6	▲17.6	▲20.6	6.3	0.0	3.1	
資金前年	▲25.0	▲6.9	0.0	▲17.6	0.0	15.2	▲6.3	
資金先行き	▲28.6	▲13.8	▲8.8	▲2.9	9.4	0.0	3.1	
全体平均	▲32.1	▲12.1	▲15.9	▲16.9	▲1.8	0.5	▲3.9	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。